

2012年5月8日（火）

講師：真鍋芳樹（香川大学アドミッションセンター 教授）

FD スキルアップ講座『クリッカーを教育・研究に役立てよう！』

教育方法や研究方法の手段として、オーディエンスレスポンスシステムの1つ、クリッカーを自由に使えるようになることを目的として開講された。

無線集計用のクリッカー端末（ボタン付きのカード子機）の使用方法を学生、あるいは研究対象者に説明できるようになり、また親機PCにインストールされた集計システムを制御するソフトウェア Turning Point が使えるようになるため、実際にPCを用いた演習を行った。

具体的な内容（手技の詳細は配布プリント通り）

1. 端末の説明

最初に使用する時は、子機のボタン操作を念入りに説明する必要がある。Ch ボタンや? ボタンには触れないことをまず伝える。練習用の画面を表示し、ボタンを押すタイミングを何度か練習する。うまくいけば左上の window に押した番号が表示される。回答を変更したい時は、その表示後に



ボタンを押すよう説明する。等々、実際に講師の使用経験上、気をつけるべきことをわかりやすく説明された。

2. 実際の授業活用例

講師の授業での活用例が示された。瞬時に集計されグラフが映写されるため、学生の興味は引きつけられるとのこと。毎週使用するよりは数週に1回くらいの使用頻度の方が飽きないようである。クリッカーを使用した選択問題は、その結果を保存することも、エクセル形式で出力することもできる。

3. 制御用ソフトウェア Turning Point のインストール（URL 先より無料でダウンロード）

Turning Point Anywhere は Mac でも使用可能であるが、使用項目の制限がある。（なお医学部はアンサーパッドという同様のシステムがありが端末は異なる。制御ソフトウェアのインストールには医学部教育センターの CD-R が必要。） Turning Point チュートリアル（英語）、マニュアル（日本語）はわかりやすいので、Web 上のこれらの閲覧だけでも Turning Point はかなり使えるようになる。

4. 資料の作成

必ず **Turning Point** を起動する。**Powerpoint** から起動しないことが大切。まず通常の棒グラフ作成を試してみた。その後カウントダウン(回答時間の設定)、レスポンスカウンタ(回答者数のリアルタイム表示)、グラフの実数表示などの設定方法を修得した。次に回答の仕方(単一選択か複数選択か)の設定方法、正解マークの作成方法等を修得した。

5. シミュレーションによる動作確認

端末がなくても、作成した資料でシミュレーションができる。そのやり方を習得した。

6. 配布資料の印刷

正解付きでない資料の作成方法、グラフの消し方等を説明された。講師も実際にここが一番苦労しているとのことで、重ねて注意されていた。

7. 集計結果の活用

セッションを保存していれば、後で種々の集計結果を分析できる。レポートの作成を始めると少々時間がかかるが、かなり使えるような資料ができてくる。

講師はクリッカーをかなり活用されており、実際の使用における利点、あるいは難しい所をわかりやすく説明されていた。途中受講者からの質問にも熱心に答えられ、スキルアップ講座として非常に有用であった。

クリッカーは学生が講義に興味を持つ大きな 1 つの手段となることや、リアルタイムに集計結果がグラフ化されることにより、その時点での学生の理解度がよく把握できることがわかった。さらには教員自身が自分の講義での説明の



過不足をリアルタイムでも、またその後の解析でも認識することができ、ひいては講義自体のレベルアップに繋がる可能性が十分ある。あるいは研究や講演会への応用についてもその可能性が示唆された。

香川大学には 3 台の親機、300 台の子機があり、幸町キャンパス以外でも使用が可能である。また医学部では、システムが異なるが同様のアンサーパッドシステムが使用可能である。(文責：医学部 筒井)